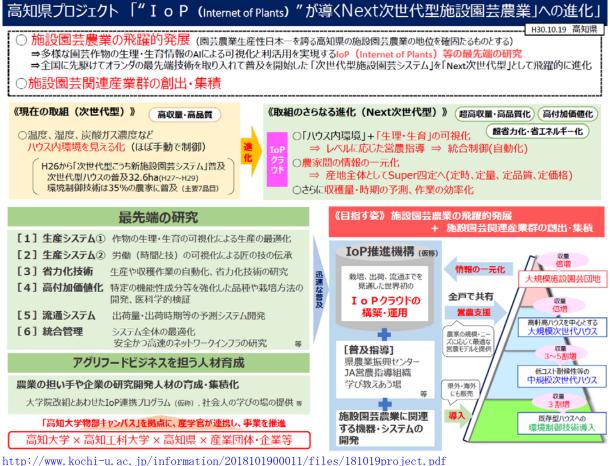
## 高知県における施設園芸農業の未来

石塚悟史(高知大学IoP事業推進室)

高知県では農業の担い手の減少に関わらず、農業産出額は平成25年から上昇傾向に転じている。その理由は、温度中心の管理と農家の経験と勘を頼りにした営農スタイルが主流であったが、温度以外に、湿度、炭酸ガスを作物の樹勢や日射量に応じて総合的にコントロールする環境制御技術が普及したことによって生産性が向上したからである。平成29年度の耕地面積あたりの都道府県別農業産出額を比較した資料(産出額は、米、畜産、加工農産物を除いて、耕地面積は、米(水陸稲)を除いて算出(農林水産省データより))によると、高知県はダントツの1位である(738万円/ha)。高知県の84%は森林であり、平地が極めて少ないことから、農業で所得を伸ばすためには反収アップと技術力向上に力を入れてきた結果であろう。世界にはまだ上がいる。その代表がオランダである。オランダにおける農作物の収量は高知県の平均の2~3倍と格段に多い。まだまだ高知の施設園芸農業は進化できる可能性がある。そこで、高知県は、内閣府事業の平成30年度地方大学・地域産業創成交付金に申請した産学官連携プロジェクト「IoP(Internet of Plants)が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化」が採択され、施設園芸農業のSociety5.0の実現に向けた取り組みを開始した。本報告では、内閣府事業での高知大学の役割について紹介する。



http://www.kochi u. ac. Jp/information/201010100011/iffes/101019project.pdf

本研究は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金「"IoP (Internet of Plants)"が導く「Next 次世代型施設園芸農業」への進化 」の助成を受けたものです。

=== === === メモ欄 === === === ===